

としょかん未来ミーティング 《振り返り編》

1. 市民ワークショップ「瀬戸内市としょかん未来ミーティング」の経過

・第1回目「どうなっているの編」

開催日： 平成23年11月27日（土）12時30分～16時30分

場 所： 瀬戸内市立図書館～備前長船刀剣博物館～長船町公民館図書室

～瀬戸内市立美術館～牛窓町公民館図書室～牛窓町公民館大講義室

参加者： 34名

内 容 ①市内社会教育施設めぐり

参加者で上記の施設をバス移動しながら見学。市内の社会教育施設の現状を見ながら後半の「図書館の通信簿」、ワークショップのための予備情報を共有した。

②「図書館の通信簿」

牛窓町公民館図書室を素材に、図書館を様々な視点からチェック。評価そのものが目的ではなく、図書館の設えやサービスなどがどのような設計、配慮に基づいてなされるべきか、参加者で評価ポイントを共有するための取り組み。この観察から、3つ目の取り組みである「図書館で〇〇を解決する」のヒントを得ることも目的とした。



③ワークショップ「図書館で〇〇を解決する」

グループに別れ、意見を交換しながら、図書館で解決したい、あるいは実現したい課題や利用方法を「アイデアカード」という形で表現し、これを掲示板に貼り出して共有した。その後、全員で「アイデアカード」を閲覧し、気に入ったものに付箋紙を貼る方法で「投票」し、参加者が注目、評価したアイデアを共有した。

報告サイト http://lib.city.setouchi.lg.jp/setouchi_lib/log.html#111127

・第2回目「こんなにしたいな編」

開催日： 平成24年2月18日（土）13時30分～16時30分

場 所： 長船町公民館

参加者： 30名

内 容 ①「図書館の通信簿」報告と対応の説明

第1回目の「どうなってるの編」で実施した「図書館の通信簿」の集計結果及び自由記入欄の意見を紹介しながら、現図書館・室で改善できること、また新図書館で取り組むことに整理して報告した。

②「挑戦している図書館、書店、公共施設、カフェ」の紹介

現在注目を集めている図書館や書店、あるいはカフェやその他の公共空間をスライドで紹介しながら、そのねらいやコンセプト、また利用する人たちの様子を紹介。



③「思いをカタチにしてみる」

グループに別れて、第1回目の「どうなってるの編」で実施したワークショップの「アイデアカード」の投票上位のアイデアから、それを具体的な形として図形にするワークショップを実施。他のグループの作品も意見交換をしながら共有化。

メンバーに描かれた図のうちグループで発表するものを絞り込むという課題では、複数のアイデアをまとめたり、合体させたりしてよりユニークなアイデアイメージが発表された。

- ・特別編「『しあわせ実感都市・瀬戸内』を実現するために図書館が出来ること」

開催日： 平成24年2月25日（土）13時30分～16時30分

場 所： 瀬戸内市中央公民館

参加者： 約300名

内 容： 基調講演 13:30～15:00

片山善博 氏（慶應義塾大学教授・前総務大臣）

「知の地域づくりと図書館～学校図書館、公共図書館の役割を考える～」

シンポジウム 15:15～16:30

「しあわせ実感都市・瀬戸内」を実現するために図書館が出来ること」

パネリスト 湯浅薫男 氏 瀬戸内市地域おこし協力隊長（元ホテルオークラ岡山取締役総料理長） 山本公子 氏（図書館協議会長） 三輪佳奈恵氏・上杉佑子氏（邑久高等学校生徒） 山崎宗則 教育長

コメンテーター 片山善博 氏

コーディネーター 桑原真琴 副市長

片山善博氏は、経済状況や社会構造など様々な変化がある中、資源の乏しいわが国は「知的立国」を目指すべきであり、そうした国になるには、まず地域が自立する必要があるため総務大臣時代は「知の地域づくり」ということを念頭に置いた政策を進めたと述べた。市民が主体的に人生を送るために、また、地域が独自の発展を進めるためには、市民が知的に自立することが重要であり、その「知の拠点」として、公共図書館、学校図書館が重要であると訴えた。

シンポジウムでは、邑久高校生が在校生へのアンケート調査に基づく新図書館への要望や、誰もが利用しやすい書棚デザインやレイアウト図などを紹介した。湯浅氏はパリでの修行時代に、図書館のカフェで来館者との交流の中でフランス語を習得した体験談など、図書館での本と人との交流の様子を語られた。

山本氏は、岡山県立図書館の整備に関わった経験から図書館として具備すべき条件やサービスと設計との関係について詳しく語られた。



パネリストの発言を受けて片山氏は、図書館は、人々の様々な知的営みを支える場である。本を借りて読む、司書の助けを借りて問題解決に必要な情報を得る、そして、図書館に集う人々との交流によって自身の興味関心を広げるなど、様々な可能性がある。こうした市民を交えた意見交換を通していい図書館を作ってほしいとまとめた。

・第4回目「もう少し掘り下げてみよう編」

開催日 平成 24 年 7 月 20 日 (金)

場 所 瀬戸内市役所 大会議室

参加者 44名

内 容 新瀬戸内市立図書館整備基本計画の説明 19:00～19:30

瀬戸内市らしい図書館とは？ ～郷土資料展示機能について～ 19:30～20:00

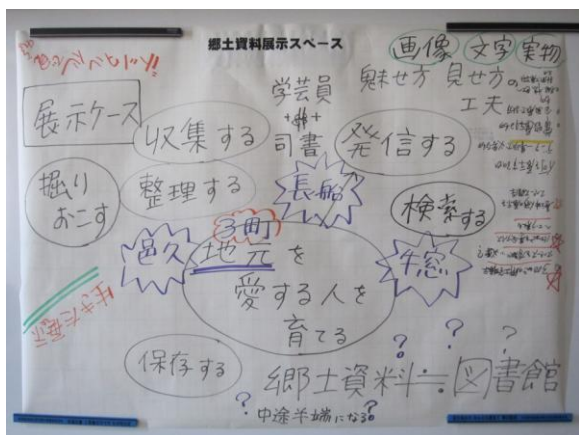
ワークショップ～「基本計画」の各機能を掘り下げる

テーブルごとに、「エントランス」「一般開架スペース」「児童開架スペース」「学びのスペース」

「集いのスペース」「郷土資料展示スペース」とテーマ別に設定し、参加者が意見を交換したいテーマ

のテーブルに着座して15分間議論。次は席替えをして別のテーマでさらに15分間意見交換を行う。

その後、各テーブルごとに出された意見を発表した。



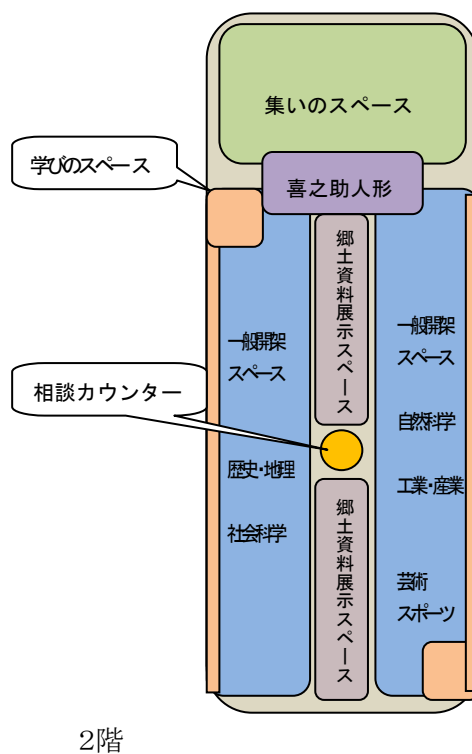
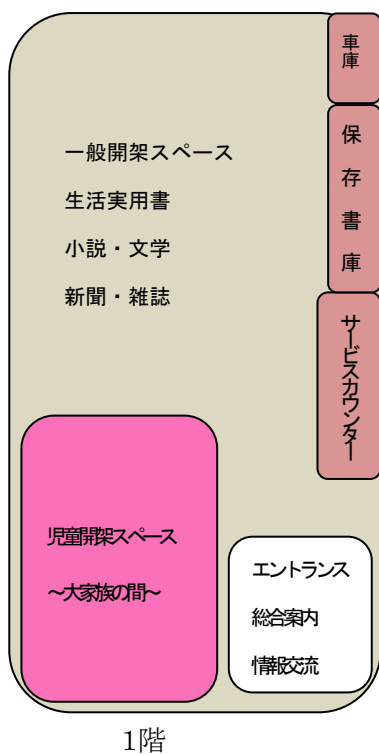
2. 「基本計画」の概要（修正後）

新図書館平面計画素案

～3つの案に共通したレイアウト～

- 1階のエントランスでは、図書館の全体を案内する表示を施します。また、市民活動などの掲示スペースや市民が談話や飲食ができるスペースを作ります。
- 1階のサービスカウンターでは、利用登録、貸出・返却を中心としたサービスを行います。また、2階には相談カウンターを設置し、調べ物や読書相談、調査研究等のサービスを行います。
- 2階の「集いのスペース」に隣接して、「喜之助人形」の展示スペースを配置し、「集いのスペース」での人形劇関連事業との親和性を高めます。
- 「集いのスペース」は、人形劇の糸操り用舞台（および腰タイプ）を常設とし、他の演目で舞台を利用するには移動できる設えとします。また、中央部分のパーテーションにより、2分割して別空間として利用できるものとします。
- 「学びのスペース」は、2階の長辺サイドにカウンター状の学習スペースを設けます。（一部、社会人専用席を設けます）また、2か所程度、グループでの学習やまちづくり活動などのミーティングができるガラス張りのミーティングルームを設けます。未利用時は個人で自由に閲覧スペースとして利用できます。
- 1階、2階とも、書架の合間に閲覧机を設けます。この机では持込自習は禁止し館内資料の閲覧専用とします。

A案（2階に郷土資料展示スペース）



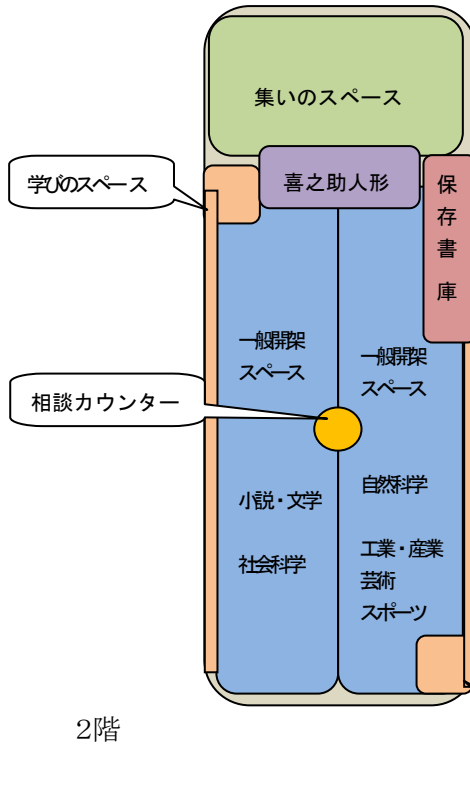
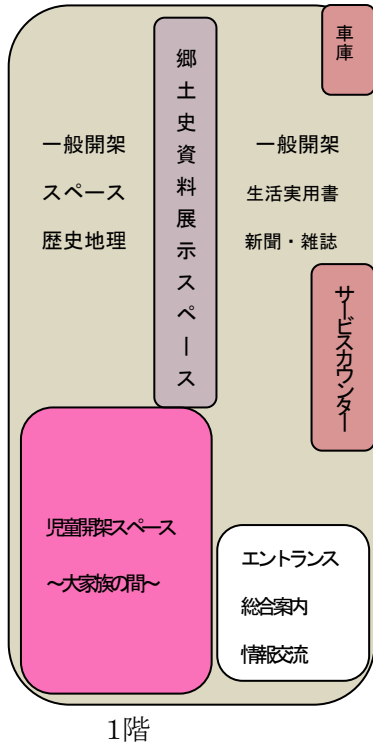
A案のコンセプト

1階に利用頻度の高い、生活実用書、小説・文学、新聞・雑誌を配し、にぎわいゾーンとしての性格を強めます。児童コーナーは、子育て関連書籍も配置し、家族で憩えるスペースとします。サービスカウンター、書庫、移動図書館車庫を集積し、管理運営を行いやすくします。

2階に、郷土資料スペースを背骨のように配し、片側に歴史・地理と社会科学系、対称サイドに自然科学、工業・産業系を配します。郷土歴史資料は、両サイドに配置される各分野の資料と親和的な主題の展示、配架となるよう工夫します。2階は性質としては、学びのスペースとしての性格が強く、郷土歴史資料への広範な来館者の接触がB案より期待できないデメリットがあります。

学びのスペース

B案（1階に郷土資料スペース）

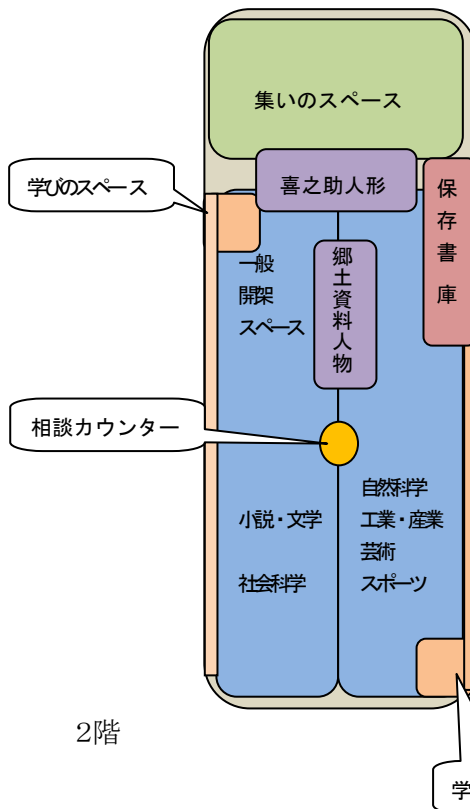
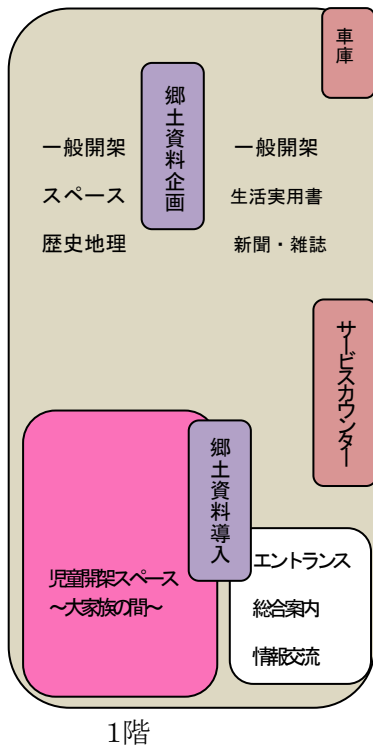


B案のコンセプト

1階に郷土歴史資料ゾーンを背骨のように配し、その片側に関連のある歴史・地理の資料を、対称サイドには利用頻度の高い生活実用書や新聞・雑誌を配架します。児童開架スペースとともに1階でにぎわいゾーンとしての性質を作りながら、郷土歴史資料との出会いを演出します。

2階は、利用頻度の高い、小説・文学を配し、いわゆるシャワー効果を期待しつつ、社会科学、自然科学系と工業・産業系の資料との接触を図ります。1階、2階に利用頻度の高い資料群を分散させることで、館内に利用者の回遊を生むことができます。

C案（1階に郷土歴史資料ゾーンを分散して配置）



C案のコンセプト

1階のエントランスと児童開架スペースの間に郷土資料の一部を配置。現在の瀬戸内市とその成り立ちをたどる郷土の概要を展示します。ここでは、図書館を訪れた人がまず郷土史と出会い、そして子どもの郷土学習とも関連付けます。1階中ほどに、一般資料に挟まれる位置で、郷土資料の企画展示スペースを設けます。また、2階にも郷土資料の人物紹介展示を行います。

2階には、利用頻度の高い、小説・文学を配し、いわゆるシャワー効果を期待しつつ、社会科学、自然科学系と工業・産業系の資料との接触を図ります。1階、2階に利用頻度の高い資料群を分散させることで、館内に利用者の回遊を生むことができます。